
爆撃機の気持ち

黒鉄大和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

爆撃機の気持ち

【Nコード】

N0749F

【作者名】

黒鉄大和

【あらすじ】

爆撃機。それは破壊しかもたらさない死の飛行機。戦争という悲惨な中でも最も最悪な悲劇を作らなくてはいけない飛行機。それが爆撃機。爆弾を雨のように降らす爆撃機は、まさに兵器そのものであった。でもその子の気持ちは一体どんなものだったのだろうか？黒鉄大和が初めて挑む詩っぽい作品です。

（前書き）

どうも初めましてやこんにちは。黒鉄大和です。

先日ついに文化祭を終えて部活（文芸部）を引退しました。これからは副部長ではなくただの人です（笑）

今まで戦争といえば艦魂ばかり書いてきましたが、今回は趣旨を変えてこんなを書いてみました。

詩というのは初めてなので、それっぽくは書きましたが自信はちょっとありません。

まだまだ未熟な所はありますが、気に入ってもらえると嬉しいです。

私は爆撃機。

目的地まで飛んで爆弾を落とすのが任務の悲しい飛行機なの。

みんなに悪魔って言われちゃう、そんな飛行機なの。

蒼い空を飛んで、自ら持った爆弾を落とすとその空はオレンジ色に変わっちゃう。

この空を好きになれる日はいつ来るのだろうか？

ううん。きっと慣れちゃいけないんだと思う。

だって慣れちゃったら、本当に悪魔になっちゃうもん。

私は悪魔じゃないよ？

だって私、こんな事したくないんだもん。

軍事施設を狙うだけでも辛いのに、何で無関係な人達が住む街を爆撃しなきゃいけないの？

普通にここに住んでいる人達を、どうして殺さなきゃいけないの？

どうして、私はこの美しい街を燃やさなきゃいけないの？

みんな必死に逃げ回ってる。

私を指差して、何かを怒鳴って石を投げて来る。

もちろんそんなの届く訳ないけど、私の心にはいっぱい当たって痛いんだよ？

そんな目で私を見ないでよ。

私だって辛いんだもん。

私はこんな事したくないのに。

そんな、怖い目で私を見ないで。

ごめんなさい。

ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。

後ろに見える燃える街。

私達は編隊を組んで自分の基地に帰るんだ。

さっきまできれいだった街が燃えてるのは、私のせいなの。

またこうして人殺しをしなきゃいけないって思うと、涙が出て来ちゃう。

本当にごめんなさい。

許してもらえないのはわかってるけど、ごめんなさい。

私は爆撃機。

時代から取り残された悲しい飛行機なの。

昔ね、世界で禁止されてた戦争に関係ない人達が住む街を爆撃しちゃダメっていう決まりを破っちゃってみんなに嫌われちゃったの。

私はしたくなかったのに。

炎に包まれて燃える街が、悲しくて辛かったの。

でもね、そのおかげでその戦争は終わったんだ。

でもね、終わったのに、すごく悲しいの。

だって、その為に私はいっぱい人を殺しちゃったんだよ？

敵だけど、軍隊じゃなくて普通の人なんだよ？

銃を持って襲って来たりしない、ただ普通にそこに住んでいるだけの人を殺しちゃったんだ。

でもね、みんな言ってたよ？

敵の国民ならいくら殺してもいいって。

でも、そんなのダメだよ？

世界の決まりを破るし。何より、絶対しちゃいけない事だもん。

もうそういう悲しい事が起きないように、私は平和を願ったの。

でもね、その戦争が終わったらまた別の戦争が起きて、私はまた出撃して空爆したの。

何度やっても辛いんだ。

もう嫌なのに、こんな戦いは嫌なのに、戦いがあるたびに私は飛んで爆撃を続けるの。

行く時はきれいな空も、帰る時はいつも不気味なオレンジ色に染まってるの。

何度も何度も泣いたんだよ？

でもね、私がんばったんだ。

そしてこれからもずっとがんばるから。

大好きな祖国の人達の為に、私がんばるよ。

少しでも早く終わらせる為に、私がんばるから。

嫌いにならないで。

私は、みんなの為なら、がんばれるから。

だから、嫌いにならないで。

いつかきつと、私を認めてくれるって信じてるから。

今日もまた、爆弾を積んで蒼い空を飛ぶんだよ。

私は爆撃機。

ミサイルっていう精密攻撃ができる今の時代、もう時代遅れになった悲しい飛行機なの。

遠くから撃って確実に敵を狙うミサイルなら、私はもう必要ないの。だって戦闘機ちゃんや攻撃機ちゃんに載せれば、私の出番はなくなっちゃうの。

バラバラと爆弾を落とす私は、もういらないんだって。

無関係な人達を殺す無差別爆撃機はダメなんだ。

効率も悪いし無関係な人をたくさん殺しちゃうからダメだって。

そんなのひどいよ。

私は何度も嫌だって言ったのに、誰も私をかばってくれなかったのに、今は政治っていうのがあってダメなんだって。

人間ってずるいよね？

汚い事を全部私に押し付けて、私を悪い子にするの。

私は悪くないのに。

私は人を殺したくないのに。

みんなの為にがんばってるのに、みんな私を認めてくれない。

私は、やっぱり悪い子なのかな？

私は爆撃機。

もうすぐ私はいなくなる。

だって今は大陸間弾道弾っていう遠く離れた場所を攻撃できる大きな大きなミサイルがあるから、もう私は時代遅れでいらないんだって。

わざわざ爆弾を積んで私が行く必要はないんだって。

だから私はもういらないの。

だって私の持てる爆弾の量より多くて効率がいいんだもん。

だから私はもういらないの。

いっぱいいっぱい人を殺して、みんなに悪魔って言われて嫌われた。

でもそれはそんなみんなの為に、嫌なのを我慢して、燃える街を見て泣きながらしたんだよ？

私は、こんなにがんばったんだよ？

ねえ、私を嫌いにならないで。

私、みんなの為にがんばったんだよ？

でも、いっぱい人を殺しちゃった。

この罪は絶対に消えないんだ。

神様も、きっと許してくれないと思う。

でもね神様、ひとつだけ言わせて。

私は、みんなの為にがんばったんだよ？

祖国のみんなが笑顔で暮らせるように、私は必死にがんばったんだよ？

でもね、やっぱり私は悪い子なの。

ごめんなさい。

私は爆撃機。

もうすぐいなくなっちゃうんだ。

きっとこれからは、必要最低限な犠牲で済む戦争になると思うの。

そしたら、もう二度と私は生まれないと思うの。

だって私は、とにかく無差別に人を殺す飛行機だから。

私は爆撃機。

昔々に嫌われながらもがんばった飛行機なの。

戦闘機ちゃん、攻撃機ちゃん、これからは私の代わりにがんばってね。

私は、雷撃機ちゃんの所に行くから。

飛行機が兵器に使われなくなったら、またどこかで会おうね。

私は爆撃機。

もう二度と、飛びたくないの。

でもね、私、みんなの為なら、また飛ぶから。

だからその時はせめて、私を温かく見守ってね。

だって、私はみんなの為に人を殺しに行くんだから。

みんなの為に、私がんばるから。

私は爆撃機。

もう二度と、飛んではいけない飛行機。

それが私　爆撃機なの。

（後書き）

どうでしたでしょうか？

これは単なる気まぐれで書いたんですが、結構お気に入りです。前々からこういう詩っぽいのは書いてみたかったので、うまく書けたと思うので嬉しいです。

爆撃機は艦上爆撃機のように小型で搭載爆弾の少ないタイプとB-29のように大量にばら撒くのを目的にした二種類がありますが、今回は後者のタイプをモデルにしました。

ミサイルという技術が発達した今では、ステルス機能のない爆撃機はいい獲物ですからね。これから先、もしも戦争が起きても、きっと爆撃機の出番はほとんどないでしょう。

現在アメリカ軍が保有している爆撃機も、今は引退を待つ身ですからね。

またアイデアが浮かんだらこんな感じの作品を書きますので、その時まで待っていてください。

まだまだ完結していない艦魂の方もがんばって書きますので、応援よろしく願います。

ご意見や感想、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0749f/>

爆撃機の気持ち

2010年10月10日04時16分発行